# 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号: 24405 研究種目: 若手研究 研究期間: 2020~2022

課題番号: 20K18037

研究課題名(和文)慢性頚髄圧迫モデルラットの脊髄症状進行に対する電子タバコエアロゾルの影響

研究課題名(英文)Effect of e-cigarette aerosol on cervical myelopathy in a rat model of chronic cervical spinal cord compression.

#### 研究代表者

玉井 孝司 (Koji, Tamai)

大阪公立大学・大学院医学研究科・病院講師

研究者番号:30711824

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文):慢性頸髄圧迫モデルラットの作成に必要な椎弓下に挿入する吸水膨張性ポリマーが製造中止となり、CSMラットの確立が課題であったが、N社のアクアプレンゴムスライスを入手した。モデル作成の手順はC6椎弓を切除し、アクアプレンゴムスライスをC5椎弓下に挿入する、術後4週程度で頚髄症が発症し、術後8-10週かけて脊髄症が悪化し約66%の確率でCSMラットが完成した。今後、タバコエアロゾル抽出液を投与する群とコントロールとしてPBSを投与する群を作成し、脊髄症の悪化に関して群間比較を行う。

研究成果の学術的意義や社会的意義 燃焼式タバコと同様に電子タバコにも特有の化学物質が含まれていることが報告されている,燃焼式タバコの喫煙習慣は脊髄症の悪化を助長すると報告がある.したがって,電子タバコの喫煙習慣においても,頚髄症の悪化の可能性がある.本研究は現時点ではCSMラットの確立に苦慮した.しかしその研究成果は,電子タバコ煙は燃焼式タバコ煙に比して頚髄症進行への影響が弱い結果であれば、燃焼式タバコ喫煙習慣を持つ患者に対して電子タバコへの切り替えを提唱できる。逆に、同等の増悪を示していた場合には、強い禁煙指導や禁煙外来への紹介が必要であると説明できる.そのため社会的意義が高い研究であり,今後も研究を継続する.

研究成果の概要(英文): The production of water-absorbent expandable polymer was stopped, which was necessary for the creation of the chronic cervical spinal cord compression rat, called a CSM rat. Therefore, the problem was to create CSM rat. We finally obtained water-absorbent expandable polymer (thickness: 0.3 mm to 0.5 mm, width: 5 mm, length: 30 mm), which can allow us to establish the CSM rat. The procedure for creating the model was as follows; the C6 lamina was removed, and the expandable polymer slice was inserted under the C5 lamina. Cervical myelopathy developed about 4 weeks postoperatively, and myelopathy worsened over 8-10 weeks postoperatively, resulting in a 66% probability of completion of CSM rats. In the future, a tobacco aerosol extract group and a control PBS group will be created and compared with the groups about the worsening of myelopathy.

研究分野: 脊椎外科

キーワード: 電子タバコ 燃焼式タバコ 頚髄症 慢性頸髄圧迫モデル

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

#### 1.研究開始当初の背景

燃焼式タバコの喫煙習慣は頚椎症性脊髄症の増悪を助長すると指摘されている。しかし、その増悪はニコチンの摂取ではなく、タバコの「燃焼」により発生する副産物(一酸化炭素やオキシダントによる酸化ストレス)が強く関与しているとされる。近年、本邦においても電子タバコが広く普及し始めている。電子タバコはタバコ葉を加熱させ吸引するため、燃焼に伴う副産物の摂取を伴わない。

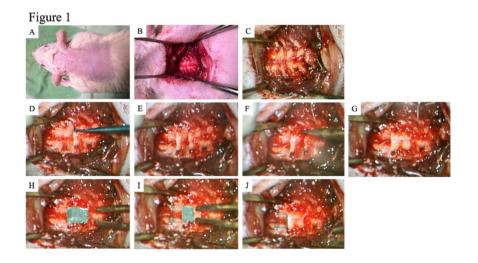
#### 2.研究の目的

本研究の目的は「電子タバコのエアロゾル吸引は頚椎症性脊髄症の病状進行に影響するか」を基礎的観点から検証することである。慢性頚髄圧迫モデルラットに電子タバコエアロゾル抽出液、燃焼式タバコ煙抽出液、及び生理食塩水を与え、頚髄症の進行程度を評価する。併せて、現在、頚髄症進行予防に有用とされている薬剤が、喫煙下でも有効かを評価する。当研究により、爆発的に普及している電子タバコの、頚椎症性脊髄症に対する影響が明らかとなる。

#### 3. 研究の方法

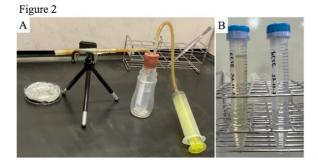
慢性頸髄圧迫モデルラットの作成方法(Figure 1)

8 週齢の雄の Sprague-Dawley rat (SD rat)を使用する. 頚椎レベルを剃毛する(図 A). 約 4cm 程度皮切を置いた. SD rat は T2 の棘突起が形態的に大きいため, T2 棘突起をメルクマールに C5 レベルまで展開する(図 B). 顕微鏡を導入する(図 C). 鋭匙を使用して, C6 椎弓尾側に付着している黄色靭帯を剥離する(図 D).同様にして C5 椎弓尾側に付着している黄色靭帯を剥離し, C5-6 間, C6-7 間の硬膜を露出させる(図 E). C6 椎弓を径 0.5mm のダイアモンドバーを用いて両側に骨溝を作成する(図 F). マイクロハサミを用いて, C6 椎弓切除を施行する(図 G). N 社のアクアプレンゴムスライス(厚み 0.3mm, 幅 5mm, 長さ 30mm)を愛護的に C5 椎弓下に挿入する(図 1H・図 1J). 洗浄と止血を行い,筋膜,表層を閉層する.



## タバコエアロゾル抽出液の作成方法(Figure 2)

本教室ではタバコエアロゾルの抽出液を作成する装置を開発している(図 A). 燃焼式タバコと加熱式タバコをそれぞれ 3 本ずつ使用した. タバコの主流煙を PBS 25ml を通過させ,  $0.22\,\mu\,\mathrm{m}$  の濾過フィルターを通して精製し, タバコエアロゾル抽出液を作成した(図 B). その後, 吸光度測定を行い, 一定の濃度になっていることを確認している.

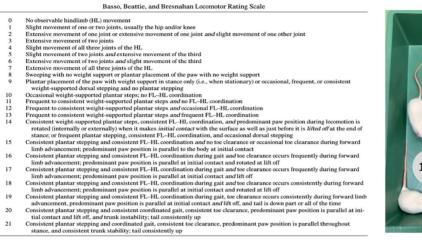


## アリング(Figure 3)

過去の報告と同様に, Basso, Beattie, and Bresnahan Locomotor Ratinng Scale (BBB score)を使用して,慢性頸髄損傷モデルラットの脊髄症の程度のスコアリングを行った.スコアリングの方法は,慢性頸髄損傷モデルラットをケージ内に入れて3分間動画撮影を行い,後に2名の評価者でBBB score をつけた. [1] Basso DM, Beattie MS, Bresnahan JC. Graded histological and locomotor outcomes after spinal cord contusion using the NYU weight-drop device versus transection. Exp Neurol. 1996 Jun;139(2):244-56.

# Figure 3

TABLE 1



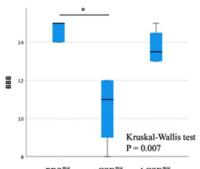


### 4. 研究成果

BBB score の結果 . (Figure 4)

PBS 群 7 例 ,cCSE 群 4 例 ,hCSE 群 4 例での検討を行った .BBB スコアの中央値は PBS 群で 15 点 ,cCSE 群で 11 点 ,hCSE 群で 13.5 点であった .Kruskal-Wallis 検定を行うと ,有意差 (p=0.007)を認め ,事後検定 (Bonferroni 訂正)を行うと ,PBS 群と cCSE 群において .有意差 (p=0.005)を認めた .一方で ,hCSE 群と PBS 群 (p=0.837) ,hCSE 群と cCSE 群 (p=0.201) には有意差が見られなかった .したがって ,燃焼式タバコエアロゾル抽出液の投与は慢性頚髄症の悪化を助長することがわかった .一方で ,加熱式タバコエアロゾル抽出液の投与は PBS 投与群と比較して頚髄症のスコアには差がなかった .

Figure 4



PBS群 cCSE群 hCSE群 以上の結果から、当研究期間内に慢性頚髄圧迫モデルラットの確立を行い、神神経症状の悪化に燃焼式タバコ・加熱式タバコ抽出液が及ぼす影響の一端を解明し得た。今後,タバコエアロゾル抽出液を投与する群とコントロールとして PBS を投与する群を作成し,脊髄症の悪化に関してさらなる詳細な評価を行っていく方針である.

5		主な発表論文等
J	•	上る元化冊入寸

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

\_

6 . 研究組織

 ・ M   プロが日が日		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

## 7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------